

じんけん くらしの扉

淡路市人教役員だより No. 50

地域は家族だ！—— 町内・集落福祉 社全国サミットで見てきたもの——

淡路市社会福祉協議会会長 小南広之（市人教理事）

11月25～26日、全国から1000人の参加を得て、市と共催で集落福祉サミットを開きました。淡路市でも、近年、人口が縮小し、単身世帯が増えて、家族の崩壊、集落の崩壊が心配されます。そこで、排除のない開かれた共同体「地域家族」…子どもから高齢者、障がい者、生きづらさを抱えた人たちが暮らせる地域づくりが注目されています。

「ひとり暮らし」をマイナスイメージで見がちですが、地域家族の中では、もっと前向きにとらえられます。尊厳をもって「いつまでも住み慣れたところで住み続けたい」それが本人の幸せであれば、それを支えるのが、私たちの役割であると思います。

市内の実践報告をした興隆寺地区は、25戸49人の小さな集落ですが、15年も前から、有志でNPO法人を立ち上げて、地域の課題に取り組んで来ました。自分たちで考え、行動する姿から、「本当の豊かな暮らし」が見えてきました。このように、「ここに暮らし続ける」という覚悟を持てば、地域が肯定的に見えてきて、景色が輝いてきます。地域の宝が見えてきます。地域を住民が主体的に開いていくことで、地域の豊かな暮らしが続いていきます。

「地域共生社会」最近よく聞きますが、この言葉は、絵本「ふしぎなともだち」のように、障がい児の「共に学び共に育つ」教育でよく使われてきました。私たちは、障がいのある人のはたらく場・居場所づくりを通して、すべての住民の支え合いが、回り巡る「共生循環型地域社会」を目指しています。

「個人の尊厳が尊重され、誰もが住みなれた所で、自分らしく暮らしていける」地域づくりを進めます。



1月5日号で、第50号を発行達成!!

今後も、心が通い合う人権広報紙をめざします。



広報紙の内容編集を、淡路市人権教育研究協議会人権広報委員会で行っており、活動方針に「わかりやすい内容で、様々な人権課題を市民に提供する」「市民の声が反映される紙面づくり」「市内で実施される事業の掲載により啓発活動を積極的に推進」を目的として発行されています。

今後も、年4回発行の中で、淡路市民として考えていかなければならない人権のルール（人の足は踏まない、誰もが個人として尊重される）づくりを啓発し、多様性を容認できる地域づくりと会話ができる広報紙、心が通い合う広報紙づくりを目指し、「共生社会」の実現への方向性を照射していきたいと考えています。引き続きご支援・ご協力よろしく願います。

（人権広報委員長 堂山 興治）

淡路市人権広報紙『まるごとじんけん』は、2005（平成17）年11月の創刊号より、本紙をもちまして、第50号の発行となりました。P2の「じんけんくらしの扉」P7の「じんけんの眼（まなこ）」は、創刊号よりの企画です。P5の「わんぱいんと手話」は、第12号よりの連載となっております。



た。今日の感激を胸に、日々頑張りたいと思います。本当にありがとうございます!!最後に皆で大合唱したり踊ったり楽しかったです。」と市内に在住する当事者の方の参加もあり、意見が寄せられました。